

防災ニュースNO13

野路自主防災組織事務局
平成22年5月1日
発行責任者 福井太加雄

野路自主防災会の計画概要

◎高齢者の福祉対策として「野路わくわくサロン」を毎月第3土曜日に実施します。

- ・ 地域の中の居場所づくり、生きがいつくり、つながりづくりで、参加者が主体的に参加できることが楽しみにつながり魅力のあるサロンにしていきます。

「ビデオ鑑賞・手工芸・手遊び・折り紙・グランドゴルフ・カラオケ・合唱・体操・昼食会等」 計画しています。
町内 65 歳以上の高齢者の方々の御参加お待ちしております。



◎要援護者対策として「救急医療情報キット命のバトン」の配布を継続しています。

◎ふれあいホットラインとして 70 歳以上の一人暮らしのお宅との「ホットライン」を構築する活動に取り組みます。



◎自主防災会専用の簡易倉庫を設置しました。

蓮池グラウンドに「赤い羽根共同募金助成」によって、自主防災会専用の簡易倉庫を設置しました。防災訓練用具や屋外テント等の収容に活用します。



わが家の地震対策

震災が起きても家族みんなの命や、財産を守るために、何をしたら良いのでしょうか。地震から家族の安全と家財を守るための方法を認識し、地震に備えましょう。

地震火災を防ぐために

地震の被害で怖い火事。急いで119番しても、被災時には消防車が現場にかけつけられないこともあります。各自が防火と初期消火を心得て、被害を最小限に防ぎましょう。

地震による出火を防ぐには

■身を守ることが第一、その後消火を

最近はガスマイコンメーターが普及しているので、大きな揺れを感じると自動的にガスがストップします。まず身を守り、揺れがおさまったらただちに火を消します。

■通電火災に注意!

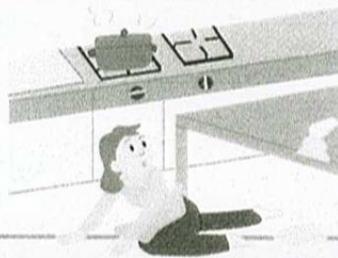
電気設備に異常がなければ、電気は送られ続けます。一時的に停電した後電気が通じて起こる「通電火災」を防ぐために、電気のブレーカーは切って避難しましょう。

火を消す3度のチャンス

1 小さな揺れを感じたとき
地震の揺れ始め2~3秒は衝撃が少ないはず。目の前で火を扱っていたら、揺れた瞬間に使用中の火を消します。



2 大きな揺れがおさまったとき
大きな揺れのときは、机の下などに身を伏せて危険を回避したあと、揺れがおさまったら火を消します。



3 出火したとき
出火したときは大声で隣近所の助けを求め、出火した1~2分の内に手近にある消火器具で消火します。消火できる限度は炎が天井に届くまでです。



初期消火の三原則

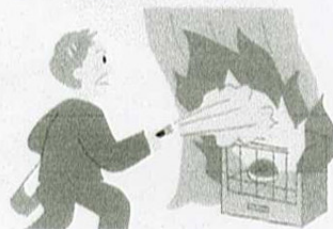
通報

- 大声で「火事だ!」と叫び、隣近所に知らせる。声が出ないときは非常ベルや音の出るものを叩くなどして知らせる
- その後119番通報



初期消火

- 火が天井に届かず横に広がっているうちは消火を試みる
- 家庭用消火器、水や座布団など身の回りのものを活用する



避難

- 危険を感じたら迷わず避難
- 避難時には火の出た部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断する



消火器は定期点検しましょう

安全ピン
封印は切れていないか
変形や損傷はないか

ホース
ひび割れ、劣化、ゆるみはないか

本体、底部
サビや変形はないか



レバー
変形や損傷はないか

キャップ
変形、ゆるみはないか

ゲージ(ついているもの)
圧力は規定値内か

ラベル
使用期限内か

消火器の構え方

1. 火炎や煙を避けて風上にまわる
2. 腰を落とし、低く構える
3. 炎ではなく、火の根元を掃くように左右に振る

※ご注意ください!
あたかも消防署の依頼で来たかのように装って高額な消火器を売りつける悪質な業者には注意しましょう。

